



# 被災地から世界へ

—「子どもボランティアステーションによる被災地復興—

東北学院大学  
スポーツマネジメント研究室

相原央都 大谷七彩 大津竣太郎  
大本勇磨 岡本茜 渋谷麻佳 水谷優香子

# ◆ 目次



緒言

提言目的

現状

課題

事例

政策提言

震災時の支援に対して、被災地から徐々に**恩返しの輪**が広がり始めている。

広島県  
伊豆大島（東京都）



## 宮城県利府町

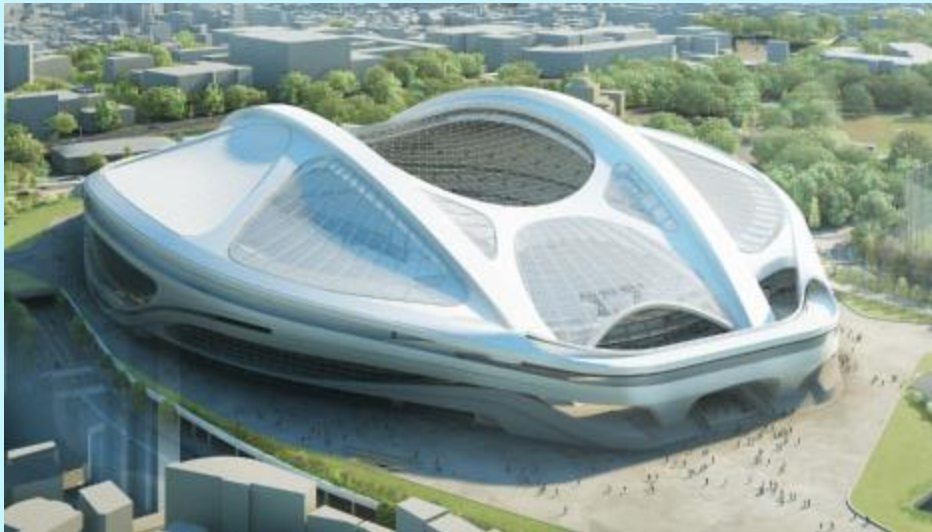
宮城スタジアム（ひとめぼれスタジアム）  
サッカー競技の予選が行われることに。



# ◆ 緒言



しかしながら



新国立競技場(<http://www.jpnsport.go.jp/newstadium/>)

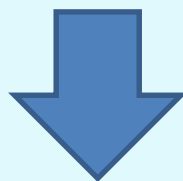
仮設住宅(<http://blog.livedoor.jp/kammyjt/archives/51865200.html>)

# ◆作業仮説



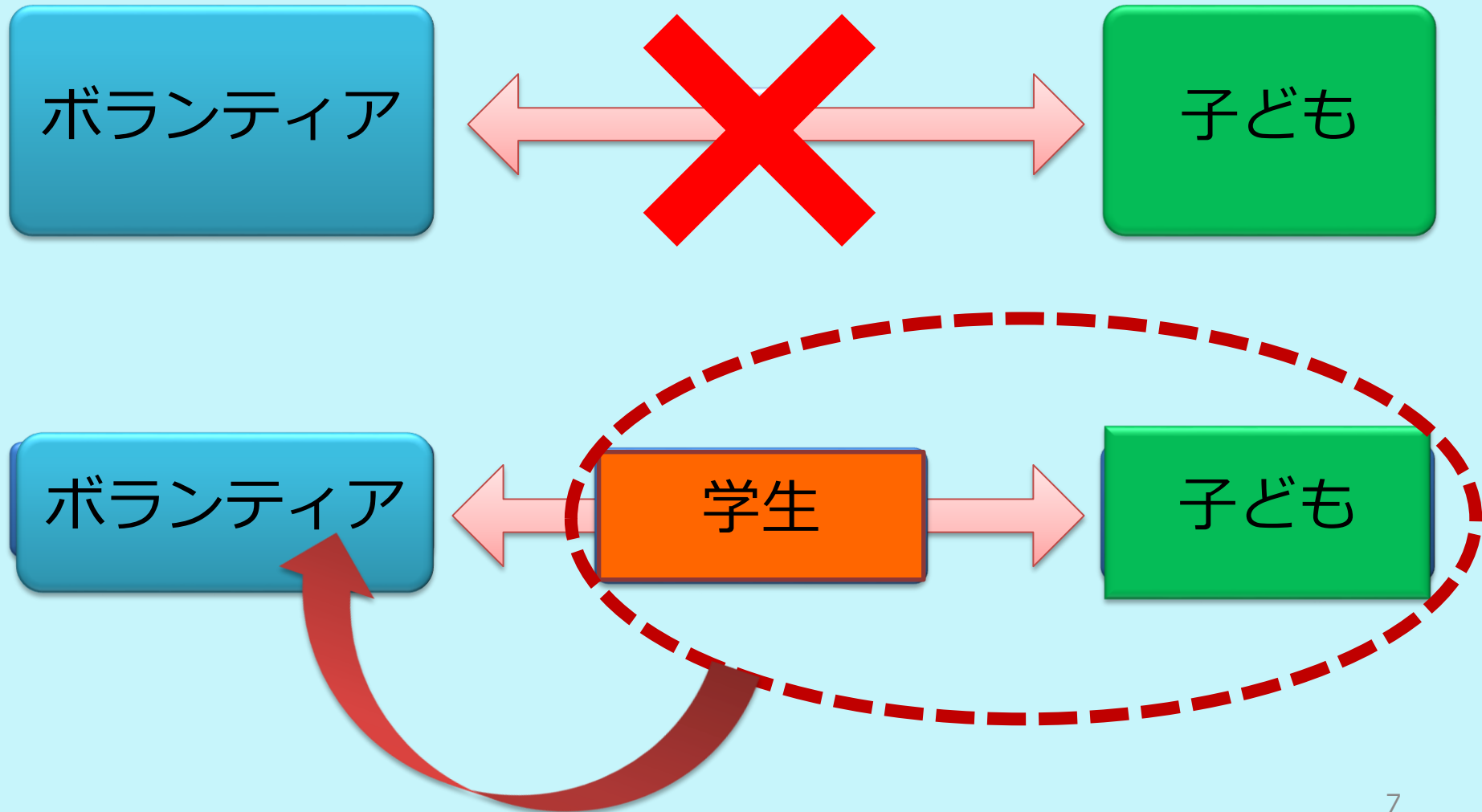
被災地が取り残されないために…

これからの復興を担っていく  
**子どもたち**がキーになる。



子どもたちの活躍の場を設ける必要性

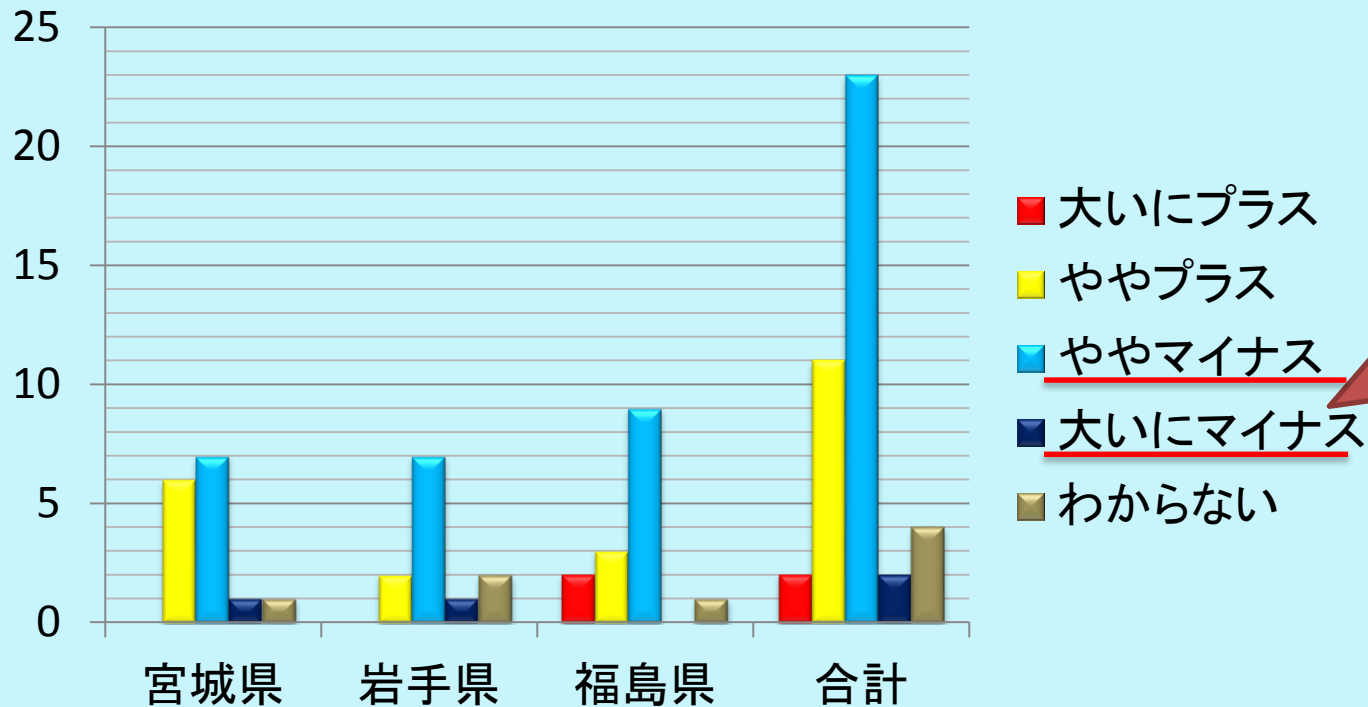
# ◆ 提言目的



# ◆現状



岩手・福島・宮城の首長らの約6割がオリンピックが開催されるのをマイナスに捉えている。



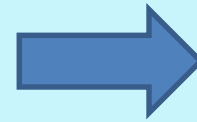
朝日新聞デジタル 東京五輪開催が被災地の復興復旧に  
どう影響するかを下に作成(2014年3月3日)



# ◆課題



恩返しをしたい

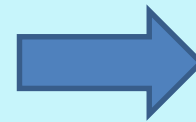


85%

**But.**なにをするか決まっていない

---

子どもたちのボラン  
ティア活動の頻度が  
少ない



69%

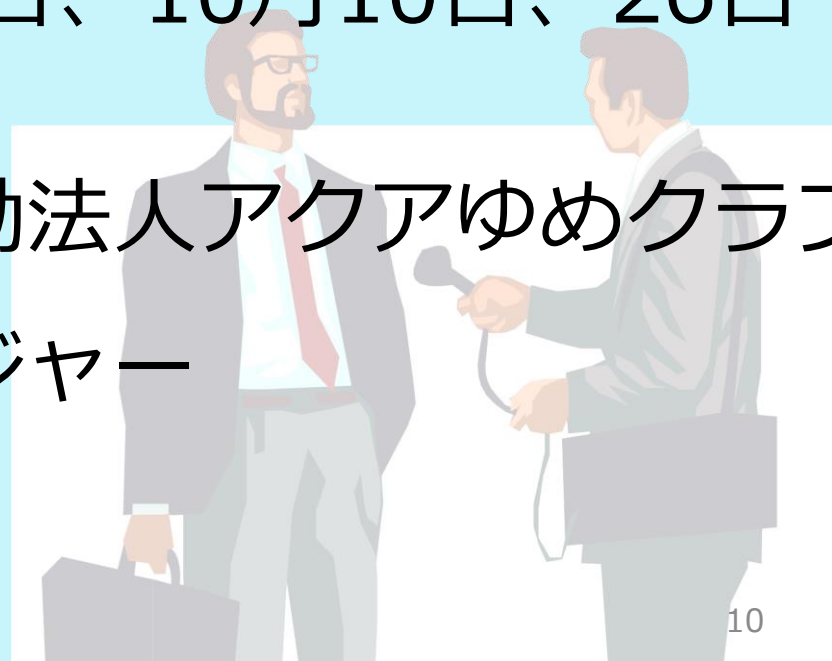
# ◆事例



調査方法：インタビュー調査

日時：2014年8月28日、10月10日、26日

対象：特定非営利活動法人アクアゆめクラブ  
クラブマネージャー



# ◆インタビュー結果

- 子どもたちの元気な姿や笑顔  
→被災地の大人たちの**原動力**に！ 😊

- 学生之力  
→今後の**重要性**

- 地域の現状  
→**ボランティア依存傾向**



# ◆事例



調査方法 : インタビュー調査



日時 : 2014年10月11日、18日、26日

対象 : 七ヶ浜サッカー教室 小学1～6年生  
特定非営利活動法人アクアゆめクラブ  
中学1年生

# ◆インタビュー結果



経験

メッセージ

募金

支援物資



恩返し

コミュニケーション



# ◆ 調查結果



# Destination



2020年東京五輪  
-復興ニッポン-

After2020  
スポーツボランティア  
継続的な拡大

スポーツボランティア  
への関心・体験

スポーツボランティア  
年齢層の拡大

支援者 (キッズボランティア11歳以上)



ボランティア実体験  
(社会貢献意欲の向上)

国際ボランティア  
難民支援・災害支援



世界・日本各地からの多大なる支援  
(物資や義援金のなかに幸福を願う聲)

被災者



支援に対する  
感謝・御礼の芽生え

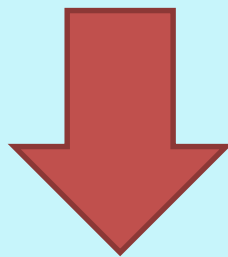


※しかし、その気持ちは実現できないもの→被災者のまま、3.11が風化していく恐れ (永遠の被災者)





支援に対する感謝の声が徐々に大人だけでなく子どもからも聞こえるように・・・。



子どもボランティアステーション

~~Pay back~~

厚意をその相手に対して恩返しすること。

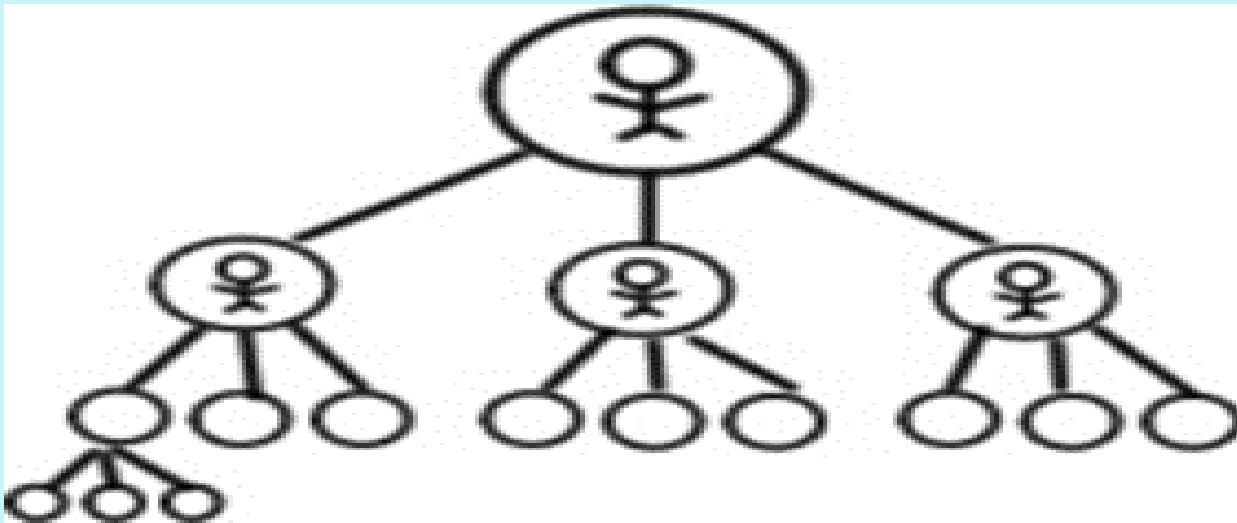


**“Pay it forward”**

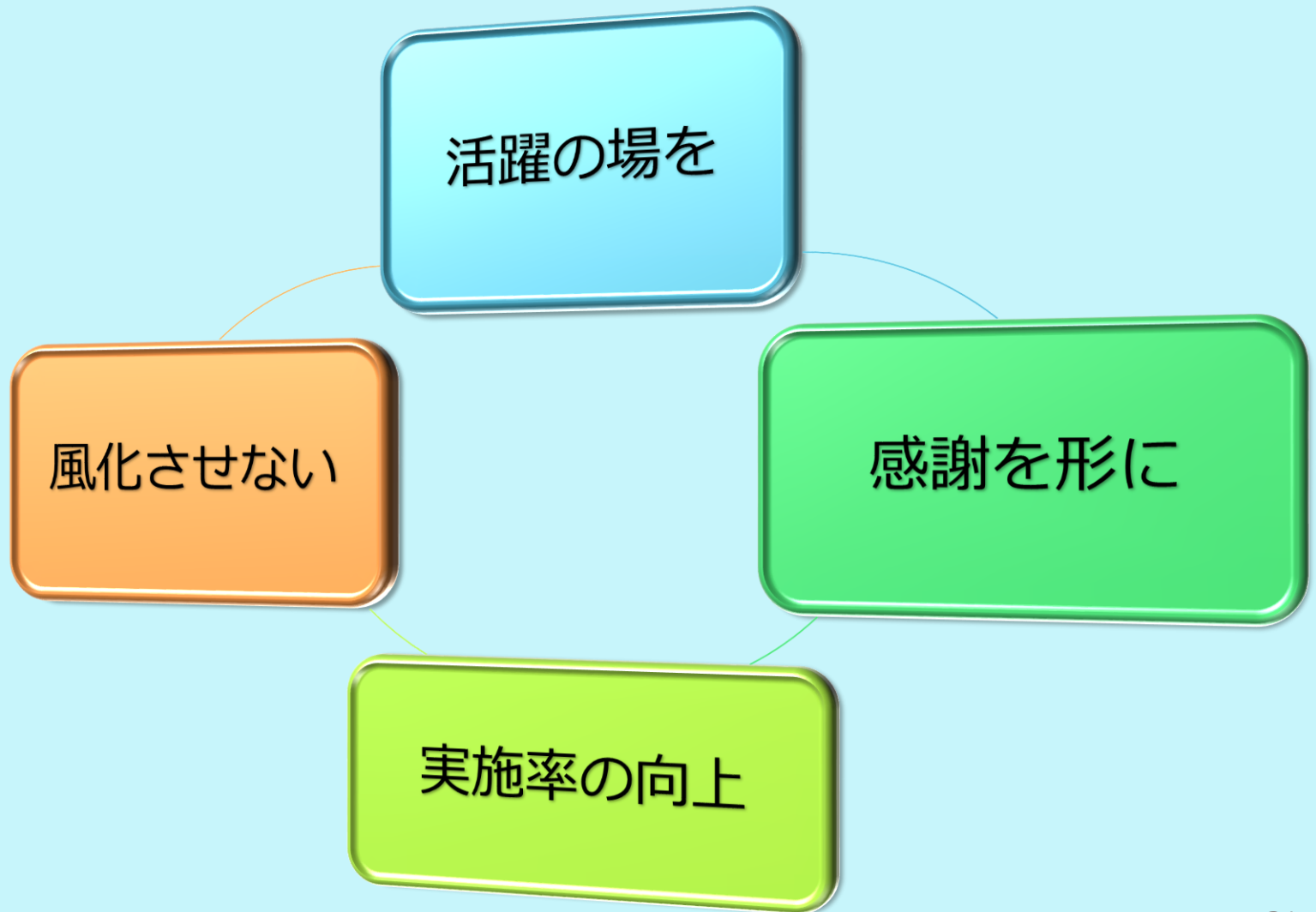
# ◆ Pay it forwardとは



他の誰かに違う形で先送りして善意を広げていくこと。



# ◆なぜ子どもボランティアステーションか



# ◆運営方法

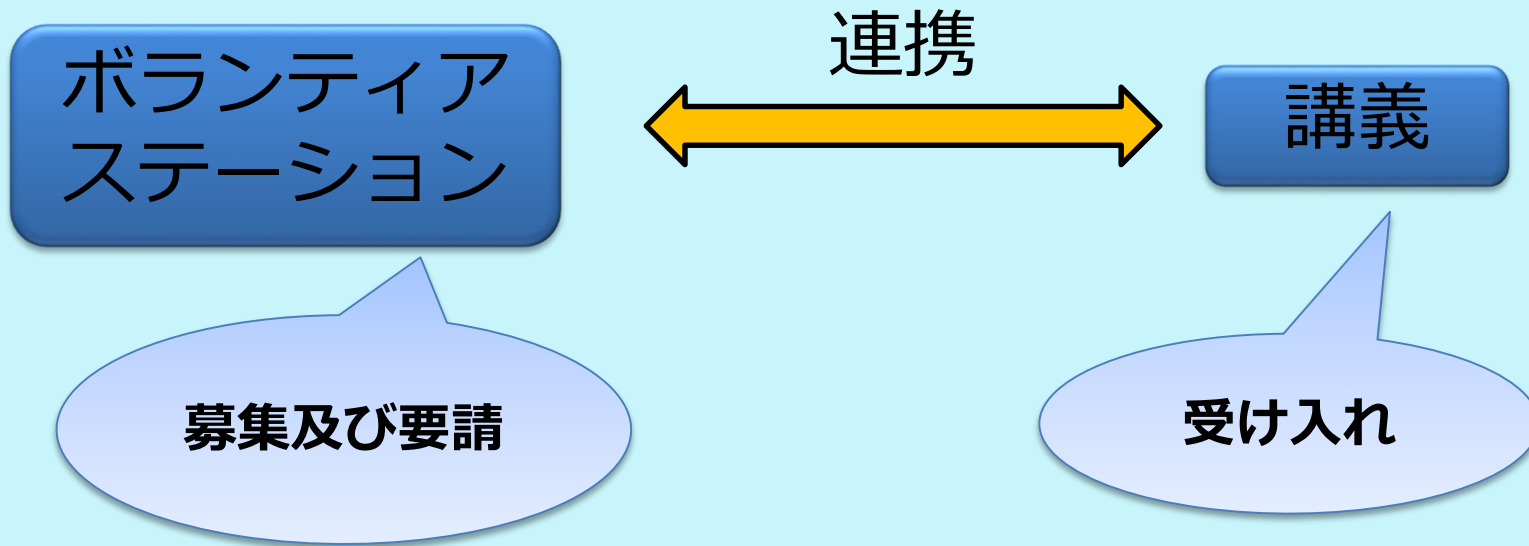


東北学院大学の講義で行われている、  
「ボランティア活動」の講義を用いる。

大学生のボランティア参加率を高めるため  
にきっかけ作りを行う。(内藤 2008)。

学生のボランティアに対する興味関心  
を引き出す。

# ◆運営方法



## 学生ボランティア

運営する学生（ボランティアステーション）

ボランティアを行う学生（講義）

# ◆活動目標・活動内容



## ・短期目標

「Pay it forward」の精神で  
ボランティアを行う。



活躍の場を設け、被災地を活気づける。

感謝の気持ちを形にする。

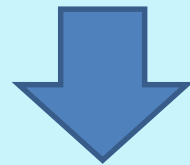


# ◆活動目標・活動内容



## ・長期目標

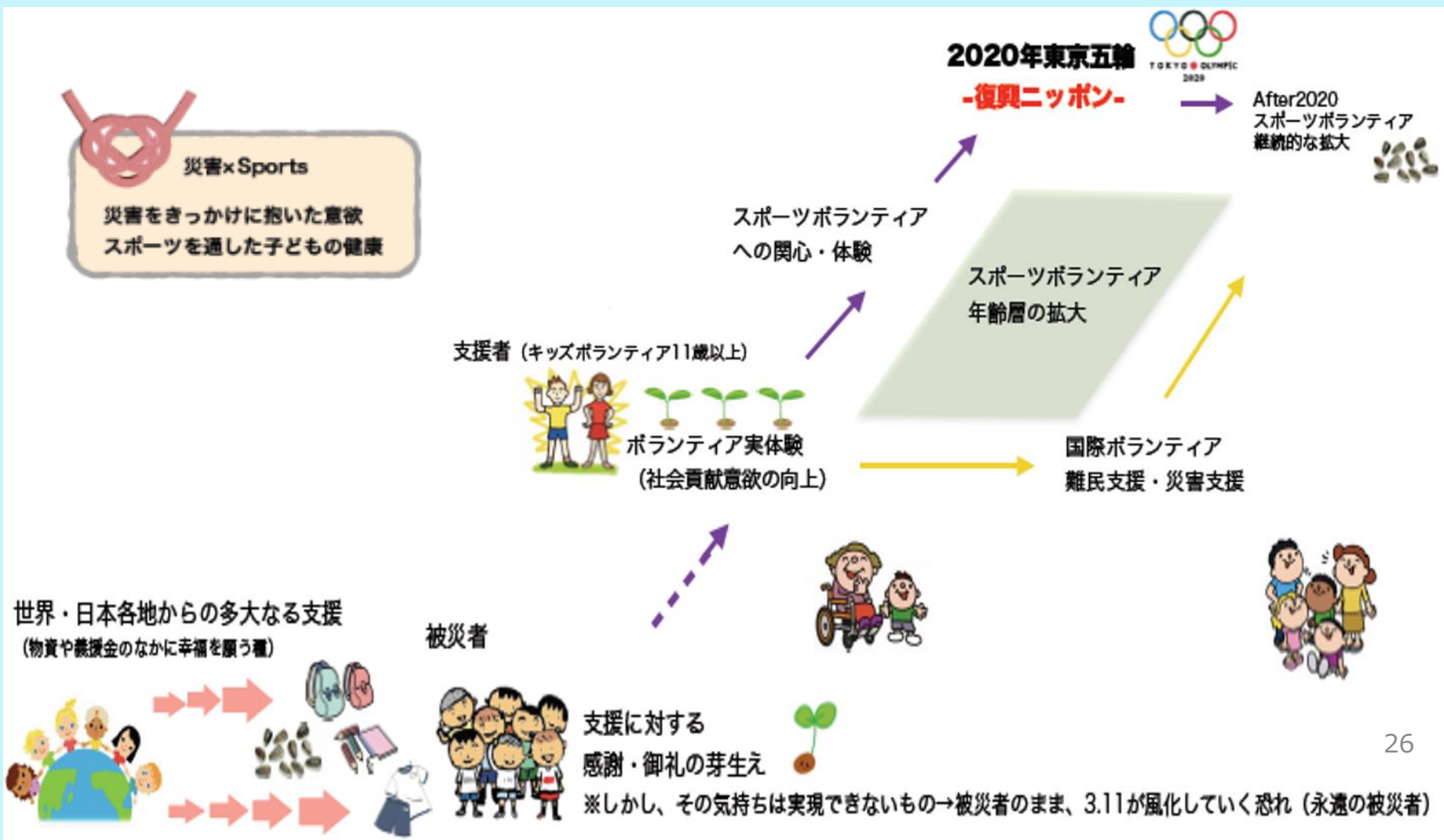
子どもたち自身による  
「ありがとう」プロジェクトを行う。



スポーツボランティアへの興味関心を高める。

観光客をおもてなしする。（宮城県）。

# ◆まとめ



- 内藤(2007) 大学生におけるスポーツ・ボランティア活動へのニーズに関する調査  
愛知学院大学心身科学部紀要第3号:21-29
- 上杉賢士・田中雅文(1997)「小学生にボランティア・スピリットを育てる」明治図書
- シンポジウムの記録資料 東日本大震災と学生ボランティアの役割(2011)
- 朝日新聞デジタル  
<http://www.asahi.com/articles/ASG2T4PYDG2TUNHB010.html>(参照2014-11-06)

ご清聴ありがとうございました。

